

橋木 てる子

静岡福祉大学社会福祉学部福祉心理学科 講師

認知症介護を行っている職員のバーンアウトに影響を及ぼす要因

- 職場におけるサポートと連携、認知症介護のあり方、介護への動機からの検討 -

本調査は、認知症介護を行う介護者のストレス状態とその影響要因について検討することを目的として、質問紙調査を行ったものである。具体的には、介護職員を対象にバーンアウト、職場におけるサポートと連携、認知症介護のあり方、介護への動機に関する認知について尋ねた。調査対象者は、東京都ならびに静岡県の特別養護老人ホーム11施設において認知症の入居者に介護業務を行っている職員279名であった。主な結果は以下の通りである。バーンアウト項目の因子分析を行ったところ、先行研究とほぼ同様に「情緒的消耗」「脱人格化」「個人的達成感」の3因子に分類された。ついで、バーンアウトに影響を及ぼす要因として、地域、性別、年齢、雇用形態、ユニット化の有無、資格の有無、介護研修参加、介護経験、認知症介護経験、勤務経験の基本属性ならびに「ニーズ充足への対応」因子、「長所への気づき」因子、「病気への理解」因子の認知症介護のあり方、「有能感」因子、「自己調和」因子、「親密さの形成」因子、「信頼関係の形成」因子の介護動機、「職場の人からのサポート」因子、「業務遂行における連携」因子の職場条件の認知を独立変数とし、「情緒的消耗感」「脱人格化」「個人的達成感」の各因子を従属変数とした一括投入法による重回帰分析を行った。その結果、「情緒的消耗感」因子では「業務遂行における連携」因子、「信頼関係の形成」因子、「職場の人からのサポート」因子、「自己調和」因子、「雇用形態」が、「脱人格化」因子では「業務遂行における連携」因子、「自己調和」因子、「信頼関係の形成」因子、「職場の人からのサポート」因子が、「個人的達成感」因子では「有能感」因子、「長所への気づき」因子が、それぞれ有意に影響を及ぼすことが示された。